

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

大学貴重資料の整理・活用

昨年に引き続き、経済経営学類と協力して、福島高等商業学校資料に、資料番号を付け分類するなどの整理を行った。

FURE（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）資料保管室から福島大学貴重資料保管室への資料移転を支援すると共に、戦国大名伊達氏の研究で著名な小林清治名誉教授の旧蔵資料の再整理に着手した。

福島大学貴重資料保管室植物標本室FKSEでは2018年4月1日～2019年3月31日の間に、のべ33名の学外の研究者の訪問利用があった。また、行政や研究者からの5件の標本データベースのデータの照会に対応した。

主催展示事業

「双葉高等学校史学部の歩み」パネル展（主催：公益財団法人福島県文化振興財団、福島大学資料研究所）を2018年11月7日～11月27日に福島大学附属図書館1階ロビーで開催した。これは東日本大震災の被災地の資料から明ら



図1 「双葉高等学校史学部の歩み」パネル展の様子。

かになった郷土の歴史・文化研究の営為と学術的意義についてまとめたもので、2017年12月16日～2018年3月4日まで福島県文化財センター白河館（まほろん）にて開催された「双葉高校史学部の歩み」展を、福島県立図書館、富岡町文化交流センター 学びの森に引き続き、パネル展として本学附属図書館にて開催したものである。

HPによる情報発信

HP（http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html）で本研究所および研究所のメンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース8件などを「お知らせ」欄などに掲載した。

後援事業

2018年4月21日に郡山市民プラザで開催された「シンポジウム ふくしまの未来へつなぐ、伝えるⅡ—地元から立ち上がる資料保全と歴史叙述—」（主催：ふくしま歴史資料保存ネットワーク）を後援した。